

まきどき・植えどき・収穫どき

# どきどき情報 12月

野菜の作業 今年の栽培の反省を行い、来年の栽培計画をたてましょう！

種まき	収穫	栽培・管理のポイント
二十日大根 ハウレンソウ 小松菜 など	葉ネギ チンゲンサイ ナガイモ 小松菜 二十日大根 ハウレンソウ など	<p><b>※ハウスやトンネルの保温管理</b></p> <p>直売所の成長とともにハウスやトンネル栽培を導入し、より出荷期間の拡大等を図ろうと努力されている会員も増えていると思います。</p> <p>しかし、現状では暖房をどんどん焚けるという状況ではないことから、保温効果を高める管理が重要となります。</p> <p>ハウスでのカーテンの設置やサイド面の内張りは日中蓄えられた熱を夜間の貫流伝熱により施設外へ放射されるのを低減するのに効果的です。一層カーテンの被覆効果はフィルムの種類にもよるが無加温ハウスで2～3℃の保温効果が期待でき、二重にするとさらに効果が高まります。フィルムの種類は様々なものがあり、蓄熱資材が含まれたりアルミなどの反射率の高い資材を織り込むなど保温効果を高める工夫がされたものもあります。また、中空構造として断熱効果を高めたエアーマットなどと呼ばれる資材もあり主にサイドの多層化に利用されます。</p> <p>さらに、トンネルや通気性のあるベタガケ資材を併用すると一層効果が期待できます。設置等のポイントとしてはつなぎ目や重ね目は隙間が出来ないように注意するとともに、二重にする場合はフィルム同士には1cm以上の隙間(空気層)を保つことが重要です。</p>



## 【野菜作付け計画作成のポイント】

### 1 計画作成の前に

今年作付けした野菜等の生産状況や販売結果はどうだったでしょうか。出荷時期や期間、品質や数量などは予定どおりだったか、労力的に間に合っていたか、気象的・施設面などで苦労したことはなかったか、一方、販売面では直売所への種類ごとの出荷が集中したり不足しなかったか、消費者の好みはどうかなど一年を振り返り課題を整理してみましょう。

### 2 どんな野菜をどのくらい、いつからいつまで作るか

- (1) 主力品目（栽培に慣れていて自信がある品目、直売所の定番となっている品目等）として、自分の「顔」ともいえるような品質・数量ともに安定して出荷できる品目を2～3種類を定め、果菜類は多めに、葉物類はできるだけ長期間出荷できるよう（多回数播種など）作付けする。（施設化の検討も。）
- (2) 補完品目（数量や期間は望めないが、人気のある品目や主力品目とのバランス的に労力が投入できる品目など）を数品目を組み合わせ、出来るだけ出荷の谷間を埋めるように工夫して作付けする。

また、新たに挑戦してみようと思う品目を1～2種類（あまり多くしない）を選び、面積は控え目で、労力や販売状況に応じて補完品目に加えるか検討する。

### 3 畑の組み合わせを考え、出来るだけ輪作をしましょう。

毎年、同じ野菜や同じ科の野菜を作付けすると病害虫の発生が多くなったり、肥料成分が偏り生育が悪くなることがあるので連作は避けましょう。 [主用野菜の科による分類(例)]

科名	主な野菜	科名	主な野菜
なす科	トマト、ピーマン、ジャガイモ、トウガラシ、パプリカ	せり科	ニンジン、パセリ、セリ、みつば
うり科	スイカ、キュウリ、メロン、かぼちゃ、ヒョウタン、ハチマ	あぶらな科	ダイコン、カブ、ハクサイ、キャベツ、カブラ、ケルソ
きく科	レタス、フキ、ゴボウ、シュンギキ、チコリ	ゆり科	タマネギ、ネギ、ニラ、アスパラガス、ニンニク、アサツキ
まめ科	サヤエンドウ、エダマメ、ソラマメ、落花生	その他	イチゴ：バラ科、ホレンソウ：アザミ科



# 農業豆知識

## カボチャの種類・品種・特徴・栽培（その2）

カボチャの特性として発芽適温は、25～28℃であり、最低15℃・最高は35℃であるが20℃以下では発芽に長時間を要し、35℃以上では発芽率が低下してしまいます。また、生育適温は20～22℃であり、ウリ科の中では低温性です。西洋種は日本種より低温性で、平均温度が23℃以上になるとデンプンの蓄積が不良となり、さらに高温になると生育そのものが阻害されてしまいます。したがって7～9月収穫の作型では寒冷地の方が栽培適地といえます。開花・結実ついて、開花は早朝から始まり雄花の花粉の発芽力は時間とともに低下しつつあり、10時頃には受精能力を失うが、結実結果を見ると開花時から8時頃までが高くなっています。なお、窒素過多などにより過繁茂となると雌花の着生不良や結実率の低下になりやすく、降雨や低温によっては落花が多くなる性質があります。

### ● 品種と特徴（例として）

品種については、近年人気の野菜の一つとなっており、西洋種を中心に多くの種苗メーカーで様々な品種が作出され、外見的に似たものも多く、その「カボチャ」だけを見て品種名を特定するのは難しい場合も多いことから、品種のわかる種子を播種するとともに、苗を購入する場合でも品種を確認して栽培してください。



「えびす」



「九重栗」



「雪化粧」

外見的には、「えびす」のように果皮が濃緑色で果重が1.5kg前後で淡緑色のチラシ斑が入った品種、「九重栗」のように果皮が濃緑色・果重が1.8kg前後の大型果でチラシ斑がない代わりに細いストライプがあるもの、「雪化粧」のように果皮が白色で果重が2.3kg前後と大型なものなどが代表的な品種でどれも粉質で食味も良い品種となっています。

- 「みやこ」果実は1.5kg前後で濃緑色で甘みが強くホクホクしておいしい。
- 「くりひろ」果実は黒緑色の扁円形で平均果重2～2.3kg、極粉質で甘味が強く食味がよい。
- 「栗えびす」濃緑地の果皮に淡緑のちらし斑が鮮明、果重1.3～1.5kg粉質でホクホクしている
- 「ほっこりえびす」果重は1.5～1.6kgで「えびす」よりやや小さめ果皮に淡緑のちらし斑が入る
- 「メルヘン」果実は黒緑色、1.5～1.8kgで強い粉質で甘味が強く食味はよい。



「みやこ」



「くりひろ」



「栗えびす」



「ほっこりえびす」



「メルヘン」



「栗坊」



「赤ずきん」



「プッチーニ」



「コリンキー」